

教育最前線

連載 18

●ティ・エステック(株)・自転車交通安全教室

参加体験型の自転車教育により 通勤時の事故防止を目指す

「自転車交通安全教室」の内容

1 座学

体格に合わせた自転車の調整方法から、正しい運転姿勢とブレーキのかけ方、効率の良いペダルの踏み方、自転車に関する法規を説明。また、同工場周辺で注意すべき交差点の写真をみながら、自転車の交通事故で最も多い事故は出会い頭であることを解説した。



2 実技



●ブレーキのかけ方
左ブレーキをかけ、早歩き程度のスピードに落としてから、右ブレーキをかけて停止するという基本操作を身につける。

●低速バランス

約2m間隔で並べられたパイロンに接触しないよう通過するトレーニング。受講者は左ブレーキでスピードをコントロールしながら低速でのバランス感覚を養う。



●駐車車両の側方通過

やむを得ず車道の中央付近にはみ出す時は、必ず後方からクルマが接近していないか確かめることを身につけてもらう。



●見通しの悪い交差点の通行



停止線がある場所ではその手前で一旦止まり、その後、徐々に前に出て安全確認を行う。「頭を動かして、左右をよく見て下さい。また、安全確認の前に右側のペダルを上(斜め前45°の位置)にセットしておく、スムーズに発進することができます」とインストラクターがアドバイスした。

ティ・エステック(株)は、シートをはじめとする自動車内装品を中心に開発・生産している企業だ。
5月17日、ティ・エステック(株)鈴鹿工場(三重県鈴鹿市)で自転車交



自転車交通安全教室には坂口さんをはじめ、交通安全部のメンバーも参加した

通に街頭に立つての指導を定期的に行っています。自転車の場合はルール・マナーが十分に守られているとは言えませんが、そこで、自転車通勤者を対象に効果的な教育をしていく

交通安全教室が行われた。これは同工場の交通安全部が自転車通勤者の事故防止を目的に開催したもので、指導は本田技研工業(株)安全運転普及本部鈴鹿普及ブロックが担当した。
交通安全部会長を務めるティ・エステック(株)鈴鹿工場管理部生産管理課長の坂口達也さんは「交通安全部では、通勤時間



最初は座学。鈴鹿普及ブロックのインストラクターが、安全走行の基本となる正しい運転姿勢やブレーキのかけ方などを説明する。そして、自転車は道路交通法上、車両として扱われるため、左側通行が基本であることや、一

ポイント① 自転車に関する知識を再確認する

必要があると考えました。これはその第一歩です」と話す。今回は自転車通勤者と交通安全部のメンバーを合わせた26名が参加した。

時停止標識などクルマと同じルールを守らなければならないことを伝えた。指導を担当する鈴鹿普及ブロックの喜井美雄さんは、「自転車は車両と位置づけられているものの、クルマやバイクのように体系的な教育を受ける機会が少ない。大人であっても正しい乗り方やルールを知らないケースもあります。そのため、基本から再確認していく必要があります」という。

ポイント②

正しい乗り方を実践してもらう

この後、参加者は工場内の駐車場に設定された練習用コースに移動。まず、直線を走行し、目標位置で止まるトレーニング。座学で学んだブレーキのかけ方を実践してみる。見通しの悪い交差点の通行では、インストラクターが参加者一人ひとりの乗り方を見ながら、アドバイスを行った。

「ホンダの交通安全教育は参加体験型が基本です。体験してみると、新たな気づきが生まれ、座学で学んだ知識を自分のものにするができます」と、喜井さんが参加者に伝えた。

ポイント③

社内に指導者を養成し、活動を継続する

ティ・エステック(株)鈴鹿工場では約140名が通勤のために自転車を利用しているという。この教室に参加した交通安全部のメンバーは今後、指導者となり、こうした社員への啓発活動を担っていく。

「自転車の交通ルールや乗り方について、基本から学べて良かったと思います。ホンダの自転車教育に関するノウハウを体験しながら吸収できたので、これをベースに私たちが継続していきたい。それが真に自立した交通安全活動だと考えています」と坂口さんは意気込みを語った。



読者の声

ご愛読者のみなさまへ
SJに対するご意見・ご感想をお寄せください！
SJ編集部では今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。みなさまのご意見・ご感想・ご要望を下記メールアドレスにてお待ちしております。
sj-mail@spirit.honda.co.jp

●大阪市立東高等学校(大阪府)
生徒指導部
加藤 修さん

本校は全校生徒の約半数が自転車で通学しています。朝、遅刻ギリギリの時間に慌てて登校してクルマと接触したり、安全確認が不十分で歩行者と接触するなど、年に数件は事故が発生しているのが現状です。生徒たちには、マナーを守って登校するように日々指導しています。

他校の交通指導や実践を参考にしています。が、一朝一夕には解決しません。SJ紙に自転車の危険回避などの記事が乗っていると、時にはコピーをして担任に配ったりすることもあります。クルマから見た自転車の様子の解説、無灯火だとなぜ危険なのかといった情報があると生徒の指導に役立つと思いますので、これからも掲載をお願いします。